

2024年8月30日

各位

株式会社富山第一銀行

医療法人社団城南会との
「ファースト・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結

株式会社富山第一銀行（頭取 野村 充）は、医療法人社団城南会（理事長 飴谷 博）を評価対象とした「ファースト・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

本サービスを通じて、取引先の企業活動における環境・社会・経済の3つの側面に対して、インパクトを包括的に特定・分析し、ポジティブインパクトが期待できる活動と、ネガティブインパクトを低減する活動を支援いたします。

今後も、お客さまに「寄り添う」銀行として、持続可能な社会の実現に向けた企業活動を通じたSDGsの達成に寄与することで、さらなる信認につなげます。

記

1. 商品概要

本商品は、企業活動が経済・環境・社会に与えるポジティブ並びにネガティブな影響をポジティブインパクト金融原則に基づき特定し、ポジティブインパクト（プラスの影響）を拡大、ネガティブインパクト（マイナスの影響）を緩和することでSDGs達成を目指すファイナンスの取組です。当行は、インパクトに対する企業活動の影響・取組を包括的に分析・評価を行います。これらのインパクトに対するKPI（重要業績評価指標）についてお客さまとともに設定し、達成状況や取組状況について、定期的にモニタリングし、達成に向けて支援を行ってまいります。客観性を保つため当行が実施した評価について株式会社格付投資情報センターより第三者意見を取得しています。

2. 融資概要

契約締結日	2024年3月29日
借入人	医療法人社団城南会
融資金額	600百万円
資金使途	富山城南病院建築資金
モニタリング期間	20年

※株式会社格付投資情報センター（R&I）のセカンドオピニオンは、下記URLをご参照ください。
<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>

3. 評価企業概要 医療法人社団城南会

代表者	理事長 飴谷博
本社所在地	富山県富山市太郎丸本町一丁目8番1
事業内容	病院・診療所・介護保険施設などの運営
設立年月	1982年3月

4. SDGs 達成に向けた取組事例（詳細は評価書をご参照ください）

取組内容	人間性を尊重した切れ目のないサービス提供
インパクトの種類	社会面におけるポジティブインパクトの拡大
インパクト・カテゴリ	「健康・衛生」「住居」「人格と人の安全保障」
関連SDGs	 
対応方針	・予防から看取りまで一貫した専門性の高いサービスの提供
毎年モニタリングする目標とKPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年度までに健診専門部署による健診受入件数を年間1,000件以上とする（新設部署のため直近実績なし）。以降は改めて目標を設定する。 ・2026年度までに全職員が参加する研修・勉強会の開催回数を年間14回とする。うち、2回は医師会（保健師や認定看護師）や消防、警察などの外部機関・地域と連携した専門性の高いものとする（2023年度実績：12回）。以降は改めて目標を設定する。



医療法人社団城南会
理事長 飴谷 博氏

株式会社富山第一銀行
富山南センター支店長 本島 寿徳

【本件に関する問い合わせ先】
法人事業部：松森
TEL 076-461-3871

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

評価対象企業：医療法人社団 城南会



2024年8月30日

株式会社 富山第一銀行

目次

1.はじめに.	2
2.会社概要.	3
(1) 企業概要	
(2) 理念・基本方針	
(3) 沿革	
(4) グループ構成・組織図	
3.事業内容・行政方針.	7
(1) 医療サービス	
(2) 介護サービス	
(3) 地域連携	
(4) 行政方針	
4.SDGs・ESG 活動.	12
(1) 職場環境	
(2) 地域貢献活動	
(3) 環境への取組	
5.インパクトの特定.	14
(1) インパクトレーダーによるマッピング	
(2) インパクトカテゴリーに対応する SDG s	
(3) 日本におけるインパクトニーズの確認	
(4) 富山市 SDGs 未来都市計画の確認	
(5) インパクトの特定	
(6) 特定したインパクトと富山第一銀行との方向性の確認	
6.KPI の設定.	21
7.管理体制とモニタリング	24

1. はじめに

富山第一銀行は、医療法人社団 城南会に対してポジティブ・インパクト・ファイナンスを実施するにあたって、同社の企業活動が、環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響及びネガティブな影響）を分析・評価した。

分析・評価にあたっては、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した「ポジティブ・インパクト金融原則」及び ESG 金融ハイレベル・パネル設置要領第 2 項（4）に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的な考え方」に則った上で、医療法人社団 城南会の企業活動における包括的なインパクトを分析した。

富山第一銀行は、本評価書で特定されたポジティブ・インパクトの拡大とネガティブ・インパクトの抑制に向けた取組を支援するため、医療法人社団 城南会に対し、ポジティブ・インパクト・ファイナンスを実行する。

資金調達者の名称	医療法人社団 城南会
調達形態	証書貸付
契約期間（モニタリング期間）	2024 年 3 月 29 日から 20 年間
金額	600 百万円
資金用途	富山城南病院建築資金

2. 会社概要

(1) 企業概要

法人名	医療法人社団 城南会
代表者	理事長 飴谷博
所在地	富山県富山市太郎丸本町一丁目 8 番 1
創業年月	1980 年 4 月
設立年月	1982 年 3 月
事業内容	病院・診療所・介護保険施設などの運営
売上高	4,073 百万円 (2024 年 3 月期)
従業員	550 名 (2024 年 7 月現在)
事業所	<病院> 富山城南病院 <介護医療院> 富山城南病院介護医療院 城南内科介護医療院 <診療所> 城南内科クリニック <介護老人保健施設> シルバーケア城南 シルバーケア今泉 <認知症対応型共同生活介護> グループホーム城南 <住宅型有料老人ホーム> シニアライフもなみ <通所リハビリテーション> 城南通所リハビリセンター <通所介護> もなみデイサービス <訪問介護> もなみヘルパーステーション <地域連携> 城南会地域連携室 <居宅介護支援> もなみ居宅介護支援事業所 シルバーケア城南居宅介護支援事業所

(2) 理念・基本方針

法人理念 私たちの想い 命の尊厳に寄りそう。

1. 医療は心。

一人ひとりの人生に寄りそう、心の通った医療をめざします。

2. 地域は力。

時代が求める医療を探り、地域の拠り所となる医療をめざします。

3. 人は宝。

真心と思いやりのある行動で、笑顔あふれるチームワーク医療をめざします。

<基本方針> 3つの約束

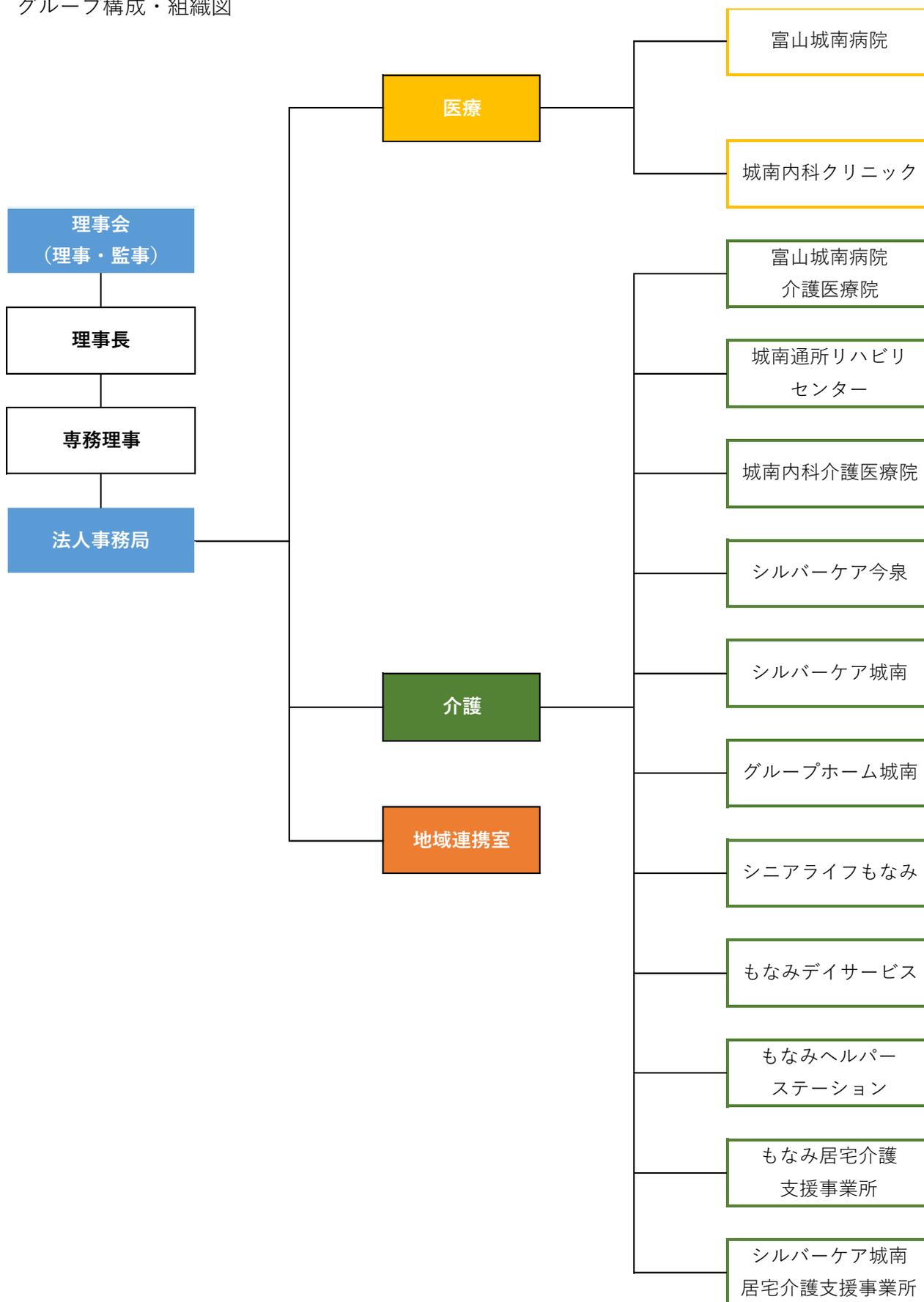
1. 一人ひとりの病態を適切に判断し、その人の尊厳を守ります。信頼され、親しまれ、満足いただける病院づくりに努めます。
2. 実績ある高齢者医療のパイオニアとして、手厚い医療サービスを提供します。常に地域と共にあり、人々から必要とされる病院づくりに努めます。
3. 職員が高い意識と共感力を持ち、生き甲斐を感じて働ける環境を整えます。互いに尊重し合い、職種を超えた交流が育まれる病院づくりに努めます。



(3) 沿革

1980年4月	富山城南病院開設
1982年3月	医療法人社団城南会設立
1985年4月	富山城南第二病院開設
1989年9月	シルバーケア今泉開設
1993年3月	しみず町内科クリニック開設
1995年7月	病院敷地内にて温泉を掘削し、病院名を富山城南温泉病院、富山城南温泉第二病院にそれぞれ改称
1996年6月	しみず町内科クリニック移設につき、城南内科クリニックに改称
2001年4月	シルバーケア城南開設
2003年4月	グループホーム城南開設
2004年4月	城南温泉デイサービス開設
2012年6月	城南デンタルクリニック開設
2014年4月	城南地域連携室開設
2019年6月	富山城南温泉第二病院介護医療院開設
2020年2月	城南会地域連携室に改称 シニアライフもなみ取得
2020年7月	富山城南温泉病院介護医療院開設
2020年9月	城南温泉デイサービス移設につき、城南もなみデイサービスに改称
2023年7月	シニアライフもなみ改修
2023年8月	城南もなみデイサービスを移設し、もなみデイサービスに改称
2024年1月	城南デンタルクリニック休止
2024年3月	富山城南温泉病院・富山城南温泉病院介護医療院・富山城南温泉第二病院・ 富山城南温泉第二病院介護医療院・城南デンタルクリニックを統合し、富山 城南病院・富山城南病院介護医療院・城南内科介護医療院開設
2024年8月	もなみヘルパーステーション開設

(4) グループ構成・組織図



3. 事業内容・行政方針

高齢者医療のさきがけとしての「城南病院」開設より40年、城南会は常に患者様・利用者様の人間性を尊重し、その一人ひとりに寄り添った医療の提供に努めてきた。2024年3月の「富山城南病院」の新規開設に伴い、地域の方々から信頼され満足していただける病院・施設運営を目指し、介護予防から在宅医療まで切れ目のないサービスを提供できるよう、法人全職員が一体となって更なる高齢化社会の将来を見据えた事業を着実に推進していく。

「富山城南病院」の開設、施設の統合にあたっては、在宅介護サービスや透析部門、健診部門の強化を行った。老若男女、法人・個人を問わず、幅広い利用者を対象に健診を行う健診専門部署を設けることで、地域の医療・介護の予防に寄与する。また、在宅介護の強化により、慢性期～終末期における「看取り」への対応力も高まった。地域包括ケアシステムにも通じる、医療、介護、生活支援・介護予防の幅広いサービスを高いレベルで提供できる体制が整っている。

(1) 医療サービス

富山城南病院と城南内科クリニックにて医療サービスを提供している。2024年3月に開設された富山城南病院では、長期療養型の病院として患者様に安心して療養いただけるよう、心のこもった診療とあたたかい医療・看護を提供している。内科外来・歯科外来をはじめ、地域連携室を通じて急性期病院からの患者様の紹介から速やかな入院受け入れにも対応、リハビリテーションの促進により生活機能の維持にも努めている。また、70台の人工透析監視装置を有し、透析医学会認定の専門医による通院・入院治療にも力を入れ、放射線専門医による血管内治療も手がけている。

70床ある人工透析室では、先進の設備を備え、専門医と技術認定を受けた看護師による維持透析を行っている。月曜～土曜まで、1日2クルルの体制となっており、受け入れ能力は当法人が位置する富山医療圏の中でもトップクラスの水準を誇る。また、療養生活支援においても入院患者様一人ひとりの療養目標に応じ、その人らしい穏やかな療養生活が送れるよう、治療・リハビリテーション・食事やレクリエーション、季節行事などを通して支援している。

城南内科クリニックでは、通常の外来だけでなく健診サービスの提供により、地域の皆様の健康増進支援を行っている。健康管理のための特定健診・特定保健指導を行い、対象となった方は管理栄養士等による栄養指導を受けることが可能。安心して受診していただくために、スタッフは日頃から研鑽を積み、より高い知識の習得、的確な医療情報が提供出来るように努めている。

企業で働く方々へは集団での定期健康診断を提供し、地域にお住まいの後期高齢者の皆様に対しては個人での健康診断を行う。他の医療機関の健康診断は午前からの受付が多い中、城南会では希望に応じて午後の健康診断も実施している。また、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した特定健診を行い、対象となった方に対して保健指導を行っている。

<富山城南病院>

定員	入院 166 床
診療科目	内科・歯科・外来透析 70 床
開設年月	2024 年 3 月
構造	鉄骨造 4 階建
総面積	7,666.86 m ²

<城南内科クリニック>

診療内容	健康診断、外来
診療科目	内科
開設年月	2001 年 4 月
構造	鉄骨造 3 階建
総面積	113.50 m ²



70床ある人工透析室



充実したリハビリ設備

(2) 介護サービス

2024年3月に新設された富山城南病院介護医療院を中心に複数の施設で介護老人保健施設や認知症対応型共同生活介護、通所介護、訪問リハビリなど多岐に渡る介護サービスを展開している。サービスの中心となる富山城南病院介護医療院では、長期にわたり療養が必要である入所者様に対し、「長期療養のための医療」と、「日常生活上の支援」を一体的に提供している。プライバシーに配慮した生活空間と明るく家庭的な雰囲気の中で、入所者様の意思及び人格を尊重し、地域や家庭との結びつきを重視した「生活の場」を体現している。また、終末期においてはその人らしい尊厳を大切に「看取り・ターミナル」を支えている。

<介護サービス拠点と役割・機能>

施設名	役割・機能
富山城南病院介護医療院	介護医療院
城南内科介護医療院	
シルバーケア城南	介護老人保健施設
シルバーケア今泉	
グループホーム城南	認知症対応型共同生活介護
シニアライフもなみ	住宅型有料老人ホーム
城南通所リハビリセンター	通所リハビリ
シルバーケア今泉デイケア	
シルバーケア城南デイケア	
もなみデイサービス	通所介護
もなみヘルパーステーション	訪問介護
もなみ居宅介護支援事業所	居宅介護支援
シルバーケア城南居宅介護支援事業所	



介護医療院の居室

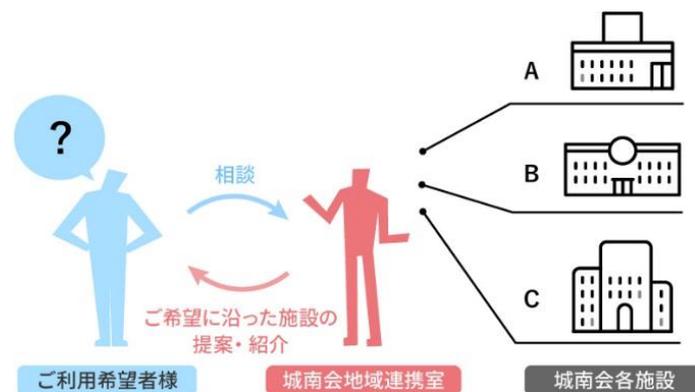


提供する食事の一例

介護医療院とは入所者様の「生活の場」であることを重視し、居室自体に家具調の仕切りと床頭台を設置して、プライバシーの確保と個性の尊重に努めた個人空間となっている。また、提供する食事は一人ひとりの心身の状態に配慮し、今までの食生活に近い状態のものを提供している。食事の調理は当法人の関連グループ企業が運営するセントラルキッチンにて行われ、献立の計画から調理、配送までセントラルキッチンと密接に連携することでフードロスの削減に寄与している。このセントラルキッチンも 2023 年に新設された施設で、噛む力や飲み込む力が弱くなった人向けに食材の形を保ちながら軟らかく仕上げる「真空調理」や加熱調理した食事を急速冷凍し保存・配送して、提供施設で食器ごと再加熱する「ニュークックチル」などの先進技術も導入されている。これらは入所者様の満足度向上とともに、食の安全性向上や作業の効率化につながっている。

(3) 地域連携

「おとしよりの福祉から医療まで」をモットーに城南会地域連携室を運営し、地域とのつながりを強化している。医療・介護サービスを利用したいが、どの施設が適しているのか分からない、施設を見学してみたいなど様々な悩みに対応する。当法人だけでなく、同グループの社会福祉法人富山城南会や関連法人施設のサービス内容詳細や空床状況の情報提供を行い、ご本人様の介護度や状態に合った施設の紹介や申込手続の調整などを行っている。



(4) 行政方針

①富山県地域医療構想

人口減少や高齢化が進展する中、2025年にはいわゆる「団塊の世代」がすべて75歳以上となる超高齢社会を迎え、富山県においては3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上となると見込まれ、多様化する高齢者ニーズへの対応が急務となっている。

こうした中、地域包括ケアシステムを構築することを通じ、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進することを目的に、2014年に「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が成立した。これに伴い医療法も改正され、富山県は将来の医療提供体制のあるべき姿を示した「富山県地域医療構想」を2017年に策定した。これは地域の実情や患者のニーズに応じた医療需要を見据えて、医療資源の効果的かつ効率的な配置を促し、高度急性期から在宅医療、介護に至るまでの、一連のサービスが切れ目なく提供される体制を確保することを目的としており、構想区域ごとに2025年の病床の機能区分ごとの病床数の必要量、2025年の居宅等における医療（在宅医療）の必要量を推計し、必要な医療の安定供給に向けて「病床の機能の分化及び連携」、「在宅医療の強化」、「医療従事者の確保・育成」を促進し取り組むことが定められた。

城南会は、富山市において医療・介護分野のサービスを担っており、病院や介護医療院、診療所、介護老人保健施設など多岐に渡る施設を運営している。また、高齢者の医療・介護の相談窓口となる地域連携室も運営しており、富山市の地域包括ケアシステムの構築に貢献している。



出典：富山県地域医療構想

②富山県医療計画

地域医療構想を策定し、病床機能をはじめとする医療機能の分化及び連携の推進等の取組を進め、良質かつ適切な医療体制の確保にあたってきたが、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、外来・入院・在宅にわたり、医療機関等が連携し、適切な役割分担の下で医療提供を行う重要性が改めて認識された。また、2024年度からは医師の時間外・休日労働の上限規制への対応も必要となることも踏まえ、地域医療構想の取組を着実に進めることにより、人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化に対応した医療提供体制を維持することを目指し、2024年に基本目標を「患者本位の良質かつ適切な医療提供体制の確保」とした富山県医療計画が策定された。基本目標の実現に向けて、下記の2つの柱からなる基本計画により施策を推進する。

(i) 質の高い医療の提供

患者が病状に応じて良質かつ適切な医療を受けることができるよう、医療機関相互の機能分担と連携、医療機能の充実を図り、5疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）や6事業（救急医療、災害時における医療、新興感染症発生・まん延時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療）、在宅医療等の医療提供体制の整備充実に努める。

また、医療機関等における医療安全に対する取組や医療情報の提供を促進し、患者が自ら医療機関や治療方法を選択し、安心して医療に参加できる環境づくりに努める。さらに、医療の高度化・専門化に対応できる資質の高い医療従事者の確保を図る。

(ii) 医療・保健・福祉の総合的な取組の推進

関係機関の連携による要介護等高齢者対策、障害者対策、難病対策、地域リハビリテーション等の医療と保健・福祉が一体となった総合的かつ効果的なサービス提供体制を推進する。

また、健康危機管理体制や感染症対策、食品・飲料水等の安全確保等について、厚生センター・保健所、医師会、消防機関等の関係機関と連携し、推進する。

4. SDGs・ESG 活動

(1) 職場環境

城南会では20代から70代までの幅広い年齢層の職員が勤務している。特に将来を担う若手人材の採用・教育に注力すると共に定年後のセカンドキャリアを支援するために、シニア層向けの労働条件や職場環境の整備も行っている。具体的には研修制度や職員寮の完備、生活スタイルにあわせた勤務形態の導入など。実際に在籍する職員のうち、20代30代の若年層職員が全体の28%、60代70代のシニア層職員が全体の20%といずれも高い比率であることは城南会の特徴である。

・新人研修

仕事の内容だけでなく、医療従事者や社会人としてのマナーも学ぶ。入社から延べ2週間は、様々な内容の新人研修を行っている。医療従事者として必要な心構えや、医療・介護の仕事への取り組み方を学ぶ。座学だけでなく、高齢者についてやAEDの使い方など、体験しながら現場の職員から学ぶ機会も設けている。その他、外部の専門講師や保険会社を招いた特別講義も実施している。

・全額貸与の奨学金制度

城南会の職員として働きながら業務に必要な資格取得をしたい人のために、全額貸与の奨学金制度を導入している。資格取得後は、城南会で働くことで奨学金の返済が免除される仕組み。専門学校卒業後、療養型病院や人工透析、介護老人保健施設など様々な部署で活躍することが可能。

富山市医師会看護専門学校の入学金・授業料として准看護師コース140万円、看護師コース210万円が必要となるが、希望に応じて城南会が全額貸与する。2024年度現在、看護師コース12名、准看護師コース7名、計19名が本制度を活用して学んでいる。

介護福祉士においても、資格取得には試験だけでなく専門学校等での6ヶ月以上の実務者研修が必要であるが、研修費用の約15万円を全額貸与している。

・子育て支援

子育てをしながら働く職員の仕事と子育ての両立を全面的に支援している。産休・育休制度をはじめ、職場復帰支援制度などにより、ワークライフバランスの充実を図っている。

職場環境にまつわる各種データは下記の通り。(2024年7月現在)

年間休日	有給消化率	3年間の 新卒定着率	育児休暇 取得率	産休・育休 後の復帰率	職員の 女性比率	管理職の 女性比率
121日	71.6%	84.6%	100%	100%	78.5%	65.9%

(2) 地域貢献活動

城南会は経営理念のもと、地域の医療・介護サービスの中心的な担い手として、本業に関わる様々な地域貢献活動（公益的な取組）を実践し、地域社会とのつながりを強化している。

・にこにこカフェ

介護老人保健施設にて行われる介護予防・認知症予防を目的とした取組であり、介護に関心がある人、介護を予防していきたい人、話をしたい人などが集まる。施設利用者だけでなく、地域住民の方にも参加していただき、軽い運動や頭の体操、お茶をしながらの懇談などを行っている。また、職員の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、看護師、介護福祉士、相談員など様々な職種に直接相談できる機会を提供している。

・各種講習会

理学療法士や作業療法士による体操指導、言語聴覚士による口腔ケア講習会、地域包括支援センターでの介護・認知症予防講習会などを開催している。専門資格を持った職員が講師となり、日々の生活の中で実施できる介護予防や生活習慣の改善を指導している。

・手洗いチェッカー

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の位置付けが5類に移行した後も施設での感染予防やクラスターの発生防止のため、継続的な標準予防策を実行している。手の汚れ具合を可視化できる「手洗いチェッカー」を使用して、職員の手洗いへの意識向上を図っている。

この手洗いチェッカーを使用した手洗いを利用者様のご家族や近隣住民の方々にも体験いただく取組を継続している。

手洗いチェッカー…汚れに見立てた専用ローションを手に塗り、手洗いた後に特殊ライトの下に手をかざすことで洗い残し箇所が光り、可視化される。



にこにこカフェの様子



脳卒中予防講座の様子

(3) 環境への取組

①LED 照明への切替

使用エネルギー量の削減のため、従来の蛍光灯から、LED への切替を進めている。既に法人全体の7割程度の照明がLEDに切り替わっており、今後数年で全てLEDとなる予定。また、設備の更新とあわせて節電に関する職員の意識改革も進めており、組織内の節電に向けたチャレンジ運動を展開している。使用していない部屋の照明はこまめに消すなど、小さな積み重ねを実践している。

②高性能紙おむつの使用による廃棄物削減

病院や介護施設で使用する紙おむつは従来よりも吸水性の高い、高性能なものを使用している。快適性を維持しつつ、従来よりも長時間の使用が可能となり、交換頻度の減少と廃棄物の削減が可能となる。

③ESG リース

設備の導入や更新の際は環境省が定める基準を満たす脱炭素機器をリースにて導入することを推進している。今回の新病院開設にあたっては複数の設備導入に本制度を活用しており、脱炭素社会の構築に寄与している。

※ESG リース…環境省が定める基準を満たす脱炭素機器をリースにより導入した場合に補助金が交付される。ボイラなどの熱源設備をはじめ、空調設備やエネルギー変換設備、産業用機械など幅広い設備が対象となっている。

上記の取組に加えて、今後は法人全体でのGHG排出量の見える化やGHG排出量削減計画の策定なども行っていく方針。

5. インパクトの特定

(1) インパクトレーダーによるマッピング

城南会の事業内容の分析結果をもとに、主要・関連業務を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングを実施し、ポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。

当法人の主要な業種については、国際産業標準分類に則り、「病院事業（8610）」「医療業及び歯科医療業（8620）」「居住介護施設（8710）」「高齢者・障害者用居住ケアサービス（8730）」「宿泊施設のない高齢者・障害者向け社会事業（8810）」を適用した。また、川上の事業に「医薬品、薬用化学品及び植物性薬品製造業（2100）」「医療及び歯科用機器・備品製造業（3250）」を適用した。川下については当法人の事業が一般個人向けのサービスとなるため、分析は川上及び当社事業に限定する。

分布図中の「◆◆」は重要な影響があるカテゴリー、「◆」は影響があるカテゴリーを示しており、当法人の事業活動における「◆◆」「◆」の影響を検討する。

国際産業標準分類	川上の事業				当社の事業										
	2100		3250		8610		8620		8710		8730		8810		
	医薬品、薬用化学品及び植物性薬品製造業		医療及び歯科用機器・備品製造業		病院事業		医療業及び歯科医療業		居住介護施設		高齢者・障害者用居住ケアサービス		宿泊施設のない高齢者・障害者向け社会事業		
インパクトカテゴリー	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	
社会	水（入手）														
	食糧														
	住居									◆		◆			
	健康・衛生	◆◆		◆◆		◆◆		◆◆		◆	◆	◆	◆	◆	
	教育														
	雇用	◆	◆	◆	◆	◆◆	◆	◆◆	◆	◆◆	◆	◆◆	◆	◆◆	◆
	エネルギー														
	移動手段														
	情報														
	文化・伝統														
	人格と人の安全保障										◆	◆	◆	◆	◆
	正義・公正														
強固な制度															
平和・安定															
環境	水（質）		◆		◆										
	大気		◆		◆										
	土壌				◆										
	生物多様性と生態系サービス														
	資源効率・安全性		◆		◆										
	気候		◆		◆		◆								
経済	廃棄物		◆		◆		◆		◆		◆		◆	◆	
	包括的で健全な経済	◆		◆			◆		◆						
	経済収束														

インパクトマッピングにおいて、当社事業のポジティブとして重要な影響があると考えられるインパクトカテゴリーは「健康・衛生」「雇用」、影響があると考えられるインパクトカテゴリーは「住居」「人格と人の安全保障」が挙げられた。ネガティブとして影響があると考えられるカテゴリーとして、「雇用」「気候」「廃棄物」「包括的で健全な経済」「健康・衛生」「人格と人の安全保障」が挙げられた。

また、川上事業においてはポジティブとして、「健康・衛生」「雇用」「包括的で健全な経済」、ネガティブとして「雇用」「水（質）」「大気」「土壌」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」が挙げられた。

【社会面】 ※経済面の「包括的で健全な経済」は当法人の事業に特段、影響のない項目と整理するため、社会面のみ記載

＜ポジティブインパクト拡大にかかる取組＞

地域の医療・介護を担うさきがけとして、城南病院を開設して以来、40年あまり、長きに渡り常に患者様・利用者様の人間性を尊重し、一人ひとりに寄り添った医療や介護を提供してきた。

人を重視した事業展開は、今回の病院新築や各施設の再編を経ても変わることなく、一層強化されているものである。特に内科クリニックに新設された地域向けの「健診専門部署」や地域包括ケアシステムにも通じる、予防から看取りにまで対応した切れ目のないサービス提供は当法人の大きな強みである。これらは「健康・衛生」「人格と人の安全保障」「住居」に関するポジティブインパクト拡大に寄与している。

長年の事業活動の中で地域経済との結びつきも大きくなっており、13の施設・拠点を有する城南会では老若男女500人を超える職員（関連の医療・福祉グループ全体では1,600人以上）が勤務しており、雇用創出、雇用機会提供の役割を果たすと共に職員一人ひとりの自己実現や働きがい確保の観点においても大きな役割を果たすことが求められる。

職員一人ひとりのスキルアップにより質の高い医療・介護サービスを提供するにとどまらず、職員の自己実現や働きがい確保に資する資格取得支援や福利厚生の実施など法人としてのバックアップを継続・強化していく方針。これらは「雇用」に関するポジティブインパクト拡大に寄与している。

＜ネガティブインパクト抑制にかかる取組＞

少子高齢化の中、社会全体として人員の新規採用が難しい情勢が続いているが、医療・介護業界はコロナ禍での過酷な労働環境、労働時間や賃金など待遇面での問題から特にその傾向が顕著な状況となっている。十分な人員が確保できなければ、提供する医療・サービスの質が低下するだけでなく、職員の心身に悪影響を及ぼす点で「雇用」「健康・衛生」「人格と人の安全保障」におけるネガティブインパクトになりうる。

これらへの対処として、城南会では電子カルテの導入とシニア層や外国人材などの多様な人材活用を進めている。限られた人員で最大限に業務効率を高めるため、ペーパーレスも含めた電子カルテシステムの導入を進めており、今年度中の導入を目指して現在は試行・運用を行っている。人材確保においては、従来からの新卒採用に加えて、シニア層を含めた中途採用や外国人材の活用に注力しており労働力の確保に努めている。60代70代のシニア層職員は現時点で全体の20%を占めており、外国人材も特定技能含め5名在籍している。また、研修制度や資格取得支援制度により、異業種からの中途採用であっても当法人で活躍できる仕組みとなっている。

【環境面】

＜ネガティブインパクト抑制にかかる取組＞

多数の拠点にて多岐に渡る医療・介護サービスを提供しており、事業活動による環境への負担も相応のものとなっている。建物や施設の運営に関連してCO₂をはじめとした温室効果ガスの排出、食事の提供に伴うフードロス、医療・介護サービスに伴う各種廃棄物などが「気候」「廃棄物」におけるネガティブインパクトになりうる。また、川上事業の「医薬品、薬用化学品及び植物性薬品製造業」と「医療及び歯科用機器・備品製造業」はいずれも製造業であり、薬品や機器の製造過程によっては水やエネルギーを大量に使用する、水や大気汚染につながる、廃棄物を出すなどが考えられ、ネガティブインパクトになりうる。

これらへの対処として、城南会ではLED照明への切替、化石燃料である灯油の使用停止、ESGリームの推進、吸水性の高い高性能の紙おむつの使用などを行っている。照明の切替では既に法人全体の7割程度の照明がLEDに切り替わっており、数年以内には全ての照明がLEDに切り替わる予定で使用電気量の削減と温室効果ガスの排出削減に一層寄与する見通し。設備の更新とあわせて職員の意識改革も進めており、組織内の節電に向けたチャレンジ運動を展開している。照明以外の

設備・機器についても環境負荷軽減を意識しており、化石燃料を使用しないものや ESG リースに対応したものの導入を進めている。今回の病院建築にあわせて、診断用 X 線装置、それに付随する読取装置、手術中に身体内部を観察する外科用 C アームの 3 点を ESG リースにて導入した。ESG リースを活用することは当社だけでなく、川上事業である製造業のネガティブインパクト抑制にも寄与する。ESG リースの対象は脱炭素性能が認められた機器であり、製造過程や使用過程における環境への影響が配慮されたものとなる。今後も設備の更新や新規導入のタイミングでは積極的に ESG リースを活用していく方針。

また、食事や排泄など日常生活に密接に関わる医療・介護サービスを提供しているがゆえに様々な廃棄物も排出される。食事に関しては、グループの関連法人が運営するセントラルキッチンを最大限活用することでフードロスの削減に努めている。施設利用者が食べやすい形状や固さにすることや、冷凍技術の活用などをセントラルキッチンにて行っている。排泄に関しては、性能・品質の良い紙おむつを使用することで快適性を維持しつつ、従来よりも長時間の使用が可能となる。交換頻度が少なくなることで、結果として廃棄物の削減となる。

(2) インパクトカテゴリーに対応するSDGs



(3) 日本におけるインパクトニーズの確認

持続可能な開発ソリューションネットワーク（SDSN）に掲載されている日本のダッシュボードによると、大きな課題が残る項目が「赤色」、重要な課題が残る項目が「橙色」、課題が残る項目が「黄色」、目標達成が「緑色」となる。

今回特定したインパクトと対応するSDGsのゴール5項目のうち、2項目が大きな課題が残る、2項目が重要な課題が残る、1項目が課題が残る項目である。日本に課題が残る項目が5項目中5項目全て該当していることから、日本における当法人のインパクトは重要度が高いと判断する。

日本

OECD加盟国



戻る 概要 指標 ファクトシート 政策への取り組み



SDGダッシュボードとトレンド

目標をクリックすると、詳細情報が表示されます。



ダッシュボード: ●SDGsの達成 ●課題は残る ●大きな課題が残っています ●大きな課題が残っています ●利用できない情報

動向: ↑SDGsの達成を順調に進めているか、維持している ↗速度に改善している →停滞 ↓減少 **トレンド情報がありません

出典：SDGsダッシュボード

(4) 富山市 SDGs 未来都市計画の確認

富山市は、富山県の中央部に位置する人口約 40 万人の県庁所在都市であり、医薬品や機械、電子部品等を中心としたものづくり産業が盛んな日本海側有数の中核都市として発展してきた。市域は国内最大級の約 1,242 km²の広さを有し、水深 1,000m の「海の幸の宝庫」富山湾から 3,000m 級の北アルプス立山連峰まで、自然豊かな多様な地勢を誇り、広大な森林面積や全国有数の水力資源、地熱資源に恵まれ、再生可能エネルギーのポテンシャル（潜在可能性）が高いことも特徴である。

人口減少、少子・超高齢社会が進行する中、このような地勢を背景として、富山市は自然との共生を通して日本全国そして世界の都市が抱える地域課題をトータルで内包し、解決・普及するための地方都市モデルとして、大きな役割を担っている。

計画の中では、今後の取り組むべき課題について、以下の 5 つの観点から整理されているが、特に「②市民生活」の分野は城南会の本業と関連が大きい。当該分野は地域包括ケアの推進、地域共生社会の推進、メンタルヘルスの向上と質の高いライフ・ワークスタイルの構築を掲げており、子どもから高齢者までが、健康で安心した生活を送ることができるよう健康づくり・介護予防の推進を図るとともに、医療・介護が必要となった場合には住み慣れた地域で可能な限り自分らしい生活が送れるよう、地域包括支援センター等との連携により、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいが一体に提供される体制づくりを推進している。特に、地域共生社会の推進では、誰一人取り残さない、地域共生社会の実現に向けて、育児・介護・障害・貧困やそれらが複合化・複雑化した課題に包括的に対応する相談支援体制づくりを推進するとともに、市民一人ひとりの暮らしと生きがいを尊重しながら地域社会をともに創造し、地域福祉を推進するさまざまな取組を展開する。

〈今後取り組むべき視点・課題〉

- ① **都市のかたち**：公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり、多様な公共交通網の整備、拠点ごとの都市機能集積
- ② **市民生活**：地域包括ケアの推進、地域共生社会の推進、メンタルヘルスの向上と質の高いライフ・ワークスタイルの構築
- ③ **エネルギー**：化石燃料依存からの脱却と脱炭素社会の実現、再生可能エネルギーの導入拡大・活用推進と都市レジリエンスの向上
- ④ **産業**：イノベーション創出に向けた基盤整備、医薬品関連産業の集積、農林水産業の活性化
- ⑤ **都市・地域**：包括的なつながりの再構築、地域におけるステークホルダーの連携強化、社会情勢の変化に対応した学校教育の推進

〈目指す将来像〉

コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現

〈3つの価値〉

経済価値

市内企業の産業競争力の強化や新技術の活用等により、持続可能な付加価値を創造し続けるまちが実現している。

社会価値

健康・医療、子育て・教育環境の充実等により、一人ひとりが個性を発揮し、活力あるまちが実現している。

環境価値

脱炭素イノベーション・再生可能エネルギーの有効利用等により、地域循環共生圏を構築し、雄大な自然と調和した、誰もが暮らしたいまちが実現している。

〈富山市の目指す都市創造のスパイラルアップ〉



出典：富山市 SDGs 未来都市計画

城南会は法人理念のもと、高齢者医療のさきがけとして常に患者様・利用者様の人間性を尊重し、一人ひとりに寄り添った医療・介護サービスの提供に努めてきた。今回の富山城南病院の新規開設にあたっては、予防介護から在宅医療まで切れ目のないサービス提供に一層の注力を行っていく。また、本業の医療・介護サービスにとどまらず、関連する様々な地域貢献活動も実践しており、これらの取組は富山市が目指す都市創造にも寄与しているものであり、行政方針に合致している。富山市の2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、社会面の「健康であると感じる市民の割合」のKPI達成にも大きな効果が期待できる。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境												
<table border="1"> <tr> <td>ゴール</td> <td>    </td> </tr> <tr> <td>KPI</td> <td> 市内総生産 2030年度:2兆1,054億円 </td> </tr> </table>	ゴール	  	KPI	市内総生産 2030年度:2兆1,054億円	<table border="1"> <tr> <td>ゴール</td> <td>    </td> </tr> <tr> <td>KPI</td> <td> 健康であると感じる市民の割合 2026年度:86.0% </td> </tr> </table>	ゴール	  	KPI	健康であると感じる市民の割合 2026年度:86.0%	<table border="1"> <tr> <td>ゴール</td> <td>    </td> </tr> <tr> <td>KPI</td> <td> 温室効果ガス排出量の削減割合(2005年度比) 2030年度:30.0% </td> </tr> </table>	ゴール	  	KPI	温室効果ガス排出量の削減割合(2005年度比) 2030年度:30.0%
ゴール	  													
KPI	市内総生産 2030年度:2兆1,054億円													
ゴール	  													
KPI	健康であると感じる市民の割合 2026年度:86.0%													
ゴール	  													
KPI	温室効果ガス排出量の削減割合(2005年度比) 2030年度:30.0%													

出典：富山市 SDGs 未来都市計画

(5) インパクトの特定

- 人間性を尊重した切れ目のないサービス提供
- 職員が働きがいを持ち、自己実現ができる職場環境の構築
- 環境負荷軽減に向けた取組の強化

(6) 特定したインパクトと富山第一銀行との方向性の確認

城南会の事業分析やインパクトマッピング、富山県と富山市の行政方針や方向性等を踏まえて、当法人と特に関連性の高いインパクトを整理した。特定したインパクトと富山第一銀行のサステナビリティ方針の方向性が同じであることを確認する。

今回特定したインパクトは「人間性を尊重した切れ目のないサービス提供」「職員が働きがいを持ち、自己実現ができる職場環境の構築」「環境負荷軽減に向けた取組の強化」である。

富山第一銀行では、サステナビリティ方針のなかで、「1.地域経済の持続的な成長」「2.地域社会の持続的な発展」「3.環境保全」「4.健全な企業経営」の4点を、サステナビリティを巡るマテリアリティ（重点課題）としている。

「人間性を尊重した切れ目のないサービス提供」では「1.地域経済の持続的な成長」「2.地域社会の持続的な発展」という観点で、「職員が働きがいを持ち、自己実現ができる職場環境の構築」では「4.健全な企業経営」という観点で、「環境負荷軽減に向けた取組の強化」では「3.環境保全」の観点で方向性が一致する。

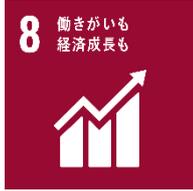
以上より、本ポジティブ・インパクト・ファイナンスに取り組むことで、環境問題や地域社会・経済を取り巻く課題に対して持続可能な社会の実現に貢献しうる資金の提供が可能となり、本ファイナンスを通じてSDGs達成に向けた取組の支援を目指す。

6. KPI の設定

● 人間性を尊重した切れ目のないサービス提供

項目	内容
インパクトの種類	社会面におけるポジティブインパクトの拡大
インパクトカテゴリー	「健康・衛生」「住居」「人格と人の安全保障」
関連 SDGs	 
対応方針	・ 予防から看取りまで一貫した専門性の高いサービスの提供
KPI	・ 2026 年度までに健診専門部署による健診受入件数を年間 1,000 件以上とする（新設部署のため直近実績なし）。以降は改めて目標を設定する。 ・ 2026 年度までに全職員が参加する研修・勉強会の開催回数を年間 14 回とする。うち、2 回は医師会（保健師や認定看護師）や消防、警察などの外部機関・地域と連携した専門性の高いものとする（2023 年度実績：12 回）。以降は改めて目標を設定する。

● 職員が働きがいを持ち、自己実現ができる職場環境の構築

項目	内容
インパクトの種類	社会面におけるポジティブインパクトの拡大
インパクトカテゴリー	「雇用」
関連 SDGs	
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得支援制度の利用促進
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 2026 年度までに勤続 3 年以上職員の資格取得率 90%とする。※ 1（2023 年度実績：84%）以降は改めて目標を設定する。 2024～2026 年度までの奨学金制度の利用者を合計 45 名とし、国家資格試験合格者を 100%とする。※ 2（2023 年度実績：利用者数 13 名、合格率 85.7%）以降は改めて目標を設定する。

※ 1 資格取得率の対象とする資格は以下の通りとする。

看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、調理師、栄養士、管理栄養士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、薬剤師、歯科衛生士、医師、歯科医師

※ 2 奨学金制度を活用した国家資格の対象は以下の通りとする。

看護師、准看護師、介護福祉士

● 環境負荷軽減に向けた取組の強化

項目	内容
インパクトの種類	環境面におけるネガティブインパクトの抑制
インパクトカテゴリー	「気候」「廃棄物」
関連 SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体での GHG 排出量の見える化と削減 ・排出される廃棄物の抑制
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2026 年度までに全施設の GHG 排出量を算定し、削減目標を設定する。以降は当該目標に沿った削減を進める。 ・2026 年度までに電子カルテシステムの稼働により、カルテ情報のペーパーレス化 80%を実現する。 (2024 年度から 2025 年度にかけて、電子カルテ導入から試行を行う計画。現状、カルテのペーパーレス化は未実施。) 以降は改めて目標を設定する。 ・2026 年度までに医療・介護サービスにおける廃棄物の項目別廃棄量を算定し、削減目標を設定する。以降は当該目標に沿った削減を進める。

7. 管理体制とモニタリング

(1) インパクトの管理体制

当法人は、理事長の飴谷博様を中心にサステナビリティに関する方針・施策の決定や、重要課題（マテリアリティ）の検討、推進、進捗状況のレビューなどを行っている。

本件におけるインパクトについては、法人事務部長の植田秀次様が中心となり、管理・KPI 達成に向けた施策を実施する。

本件融資期間が 20 年間と超長期期間となり、インパクトの管理体制は、当法人の組織改編や人事異動によって変更されていく可能性はあるが、サステナビリティ方針や施策決定の中心は、引き続き理事長職者、法人事務局が担っていく方針を確認している。中長期的な視点での運営体制が構築されていることから、継続的なモニタリング実施に対しての懸念は無いと判断できる。

最高責任者	理事長 飴谷博
管理責任者	法人事務部長 植田秀次
管理部署	法人事務局

(2) モニタリング方法

本ポジティブ・インパクト・ファイナンスで設定した KPI の達成及び進捗状況については、富山第一銀行と当法人とで定期的に面談の場を設け、共有する。本面談は少なくとも年 1 回実施するほか、日頃の情報交換や営業活動の場等を通じて実施する。

富山第一銀行からは、KPI 達成に必要な資金及びその他ノウハウの提供あるいは富山第一銀行の持つネットワークから外部資源とマッチングすることで、KPI 達成をサポートする。

モニタリング期間中に達成した KPI に関しては、達成後もその水準を維持していることを確認する。なお、経営環境の変化などにより、KPI を変更する必要がある場合は、富山第一銀行と当法人が協議の上、再設定を検討する。

前項同様、本件モニタリング期間が 20 年間と超長期期間となり、モニタリングの体制を見直す必要性が発生する可能性はあるが、サステナビリティ方針や施策決定の中心は、引き続き理事長職者、法人事務局が担っていく方針を確認していることから、体制の変化があった際にはタイムリーに、理事長及び法人事務局と今後の運用方法が協議・検討ができると判断。富山第一銀行においても、その体制変更の都度、体制内容にあわせたモニタリング方法の検討を行い、継続的なモニタリングが実施される仕組みを構築していく方針。当法人管理店と本部が連携し体制の継続を行っている。

注意事項・免責事項

1. 本評価書は、富山第一銀行が医療法人社団城南会から提供された情報や独自に収集した情報に基づく現時点での計画または状況に対する評価で、将来におけるポジティブな成果を保証するものではありません。
2. 富山第一銀行は、本評価書を利用したことにより発生するいかなる費用または損害について、一切責任を負いません。

● 本件に関するお問い合わせ先

株式会社富山第一銀行

法人事業部 コンサルティングチーム

〒930-8630

富山市西町5番1号（TOYAMA キラリ 7F）

TEL (076) 461-3871